



## CLOSE UP VLADIMIR DJUROVIC LANDSCAPE ARCHITECTURE

●講演者= Vladimir Djurovic

VLADIMIR DJUROVIC LANDSCAPE ARCHITECTURE はレバノンを拠点とするランドスケープ事務所である。

彼のデザインは環境のユニークな特徴を生かすデザインに重きを置いている。それはシンプルシティの中で自然の眺めに舞台を与える。

目的は過去と現在を調和の中に溶け込ませた空間を創造する介在の役割である。本頁写真 ©VLADIMIR DJUROVIC LANDSCAPE ARCHITECTURE

### Bassil Mountain Escape, Faqra, Lebanon

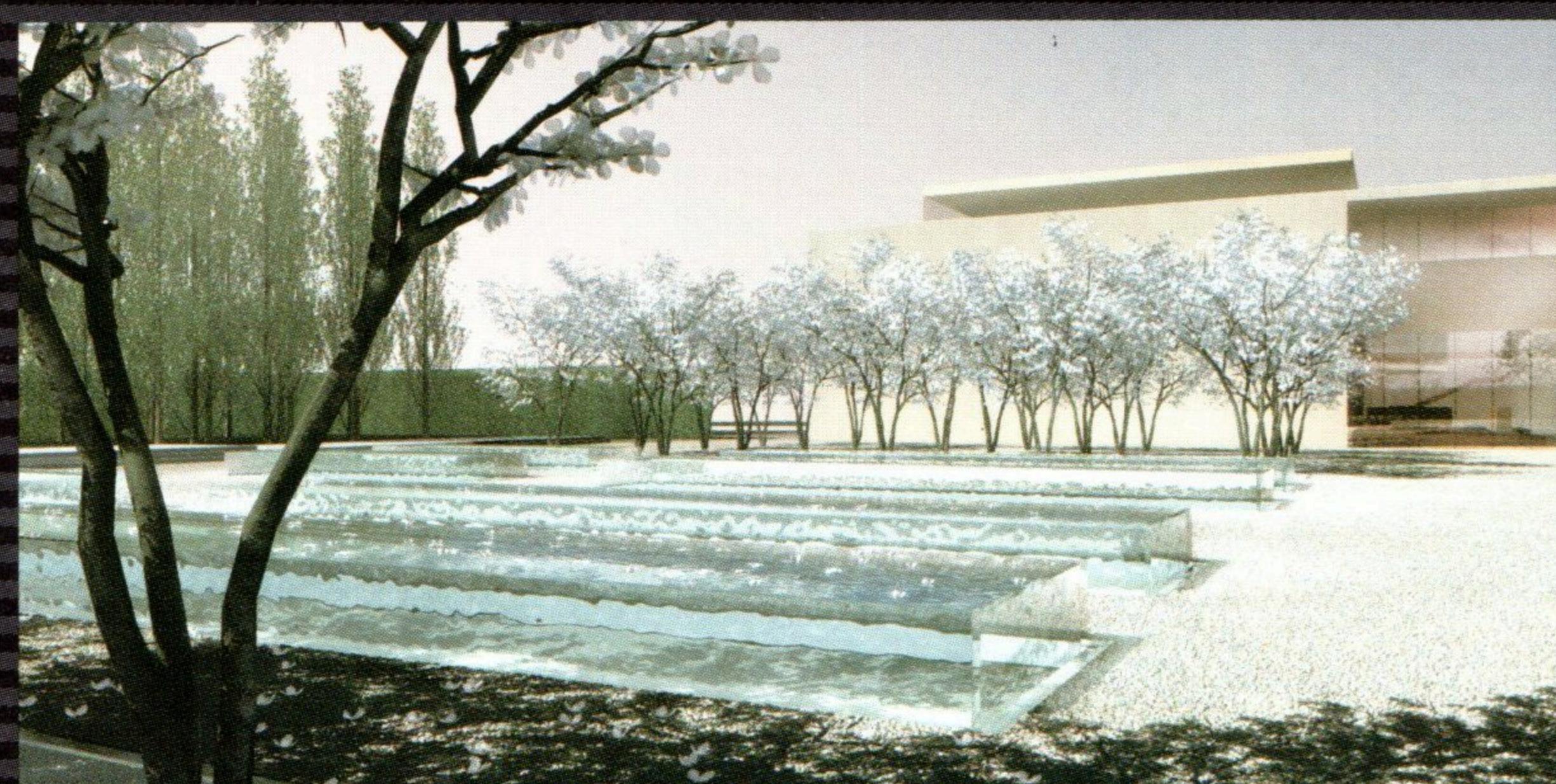
この住宅の計画はとても狭い敷地に多くの必要な空間を提供する必要があった。庭の部分と言えるのは家の周りの 4.5 メートルしかなかった。そのため、空間の感覚を最大限にするイリュージョンで演出する必要があった。計画された空間は複数のラウンジから構成され、細長いジャグジーが突き出たところでは、前方に素晴らしい眺めが広がる。その下はアウトドアのバーで日陰になっている。大きなイベントのテラスには細長いベンチとファイヤー・プレイスが設置された。飛び石は石と杉の素材でできており、ゲストを下のバーに導くように設置された。



### Elie Saab Residence, Faqra, Lebanon

この住宅には 2 つの側面がある。有名なファッション・デザイナーのため、多忙なライフスタイルからのエスケープの場所、そしてパーティの会場である。2,000m という標高の気候と 1,850m という限られた敷地に、4 つの空間のシークエンスでデザインされた。

1 階のテラスはこのプロジェクトのメイン空間で、くつきりとした直線で表現され、シンプルな二つの長方形で構成される。一つは水鏡となるスイミング・プールとベンチが組み込まれた暖炉のある平らなテラスである。座ると水面と目線が合う。これがこの前面に広がる山並みのパノラマの眺めと静かな対を成す。



### AGA KHAN MUSEUM AND ISMAILI CENTRE

トロントのアガ・カーン美術館とイスマイリ・センターのコンペの優勝作品で、日本の槇文彦、インドのチャーチルズ・コレア、地元のランドスケープ・アーキテクトとして Moriyama+Teshima と組んだ。テーマは、イスラムのガーデンの要素を取り入れ、それを現代風の表現に落とし込むことであった。五感を魂への到達の

手段として用い、それぞれの空間とガーデンはこの日常生活の忙しない現在に繊細な感覚を導く。つかの間と永遠がこの空間の構成に内在する。陰と光、花びらと落ち葉、水の動きが、つくられた形の孤独と純度を引き立てる。またこの空間の静けさの中での沈思が疎外感ではなく、精神性を統合するためのプラットフォームとなるよう試みた。



### Private Desert Retreat, Yaafur, Syria

この住宅プロジェクトでは、砂漠の厳しい気候の中で 300 人の人々が集うイベントも可能な野外の環境をつくり出すことが必要であった。二つのライムストーンの壁から生ずる空間がこの必要性に効果的に対応した。イベントに必要なキッチン、バー、バスルーム、などは細長い壁と庭に埋め込まれた。バーガラが日陰を提供し、プールと庭への眺めを強調する。